

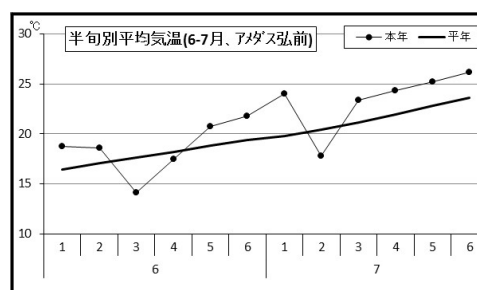
# 農作物の生育状況（8月1日現在）

中南地域県民局地域農林水産部

## 1 気象

7月1～31日の平均気温は平年に比べ1.9℃高かった。降水量は平年比132%、日照時間は平年比102%となった。

7月20日に平年より8日早い梅雨明けとなった。



## 2 水稲

7月15日現在の「つがるロマン」の生育は、平年に比べて草丈はやや短く、茎数は少なめ、幼穂形成期は2日程度遅かった。

出穂は平年並に推移しており、出穂始めは平年並の8月2日頃と予想される。

## 3 大豆

7月10日現在の生育は、草丈、葉数ともに平年を下回っている。開花期は、7月30日で平年より2日程度遅かった。

## 4 りんご

弘前市独狐のふじの肥大(横径)は6.0cmで平年並となっている。

仕上げ摘果はほぼ終了し、見直し摘果、草刈、徒長枝の剪去、支柱入れ等が行われている。

着果状況(7/12・13調査)は、各品種とも標準着果率を上回り、前年並みの着果率となっていた。また、ふじの障害果(黒星病等)の割合(0.3%)もほぼ前年並(0.7%)であった。

## 5 ぶどう

スチューベンの生育は概ね順調であり、摘粒作業が行われている。

## 6 もも

平川市新館の川中島白桃の肥大(横径)は5.7cmで平年(5.4cm)を上回っている。

袋かけはほぼ終了し、早生種の葉摘み、支柱入れ、反射資材の敷設等の収穫前管理が行われている。

## 7 トマト・ミニトマト

好天が続いたことから着色が進み、現在、出荷のピークとなっている。一部で高温による落花、裂果が見られているが、病害虫の発生も少なく生育は概ね順調である。

## 8 高冷地野菜

だいこんは、例年並みの7月中旬から収穫が始まっている。6月下旬～7月中旬の降雨により一部で裂根や軟腐病が見られている。

嶽きみは、5月上旬は種の作型は、例年並みの8月5日頃から収穫が始まる見込みである。6月下旬以降の続いた降雨により一部ほ場(6月中旬は種－9月中旬収穫の作型)で発芽不良等が見られた。

## 9 トルコギキョウ

4月定植作型では、例年並みの7月下旬から収穫が始まった。